

所 信 (案)

No L i m i t

～あくなき挑戦 ふるさと大家族と共に～

一般社団法人江津青年会議所
2017年度 理事長 漆谷久利

【はじめに】

1974年10月、愛する我がまちの明るい豊かな社会の実現を目指し、江津青年会議所は誕生しました。先輩諸兄が英知、勇気、情熱をもって、受け継いできたこの熱き志をメンバー一人ひとりが胸に刻みつつ、時代に柔軟に対応しながらこれからも運動を展開し続けていかなければなりません。

私は2000年に江津青年会議所に入会し、17年にわたり活動を行って参りました。入会前は「自分さえ良ければいい」といった考え方で、他者に対する配慮に欠け、社会に対して無関心でした。生きる目的も曖昧で、これといった夢もなく、その日が楽しければいいという刹那的な快楽に身をまかせ、流されるままに生活しておりました。また、辛いことや困ったことがあればすぐに逃げ出し、楽なほうへ楽なほうへと流される傾向にありました。

しかし、JC(青年会議所)に入会して沢山の人のびとと出会い、多くの成長の機会を与えていただき、価値観が大きく変わりました。未経験のことや、失敗しそうなことにでも果敢にチャレンジできるようになり、一歩踏み出す勇気が養えました。

このような価値観の前向きな変化を自ら作り出すという機会を、今度は現在の地域の青年たちに提供することが私たちの使命です。

【成功より成長へ】

青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理念とし、青年有志がより良い社会づくりをめざして、ボランティアや行政改革等の社会的課題に責任感と情熱をもって取り組んでいます。近年、仕事を通じて社会貢献をしたいと考える人が増えてきた一方で、平均化傾向、失敗を恐れる傾向が以前より強くなってきています。明るい豊かな社会を実現するには、現在では地域再生が不可欠ですが、それには地域貢献のできる社会人・企業人の育成がもっとも重要な要素の一つです。個の力には限りがありますが、集団となれば大きな力となります。志を同じうするものたちと一緒に輝くことが必要です。あなたの成長は、あなた自身だけではなく、あなたの大事な人や周囲の人のびとをも幸せにするでしょう。

【至誠なる団体へ】

青年会議所は日本全国にあり、「修練」「奉仕」「友情」の三つの信条のもと、より良い社会づくりをめざし、20歳から40歳まで年齢制限の中、社会的課題に積極的に取り組んでいます。

組織力向上には、志を同じうするものによる相互協力と自己成長が必要不可欠です。

メンバー同士が切磋琢磨し、挑戦を繰り返す中で成長を遂げるのです。

江津青年会議所は40周年時に皆様の前で、45周年には100人LOMを目指すと誓いました。本年度、その中間地点を折り返します。今一度、組織のミッションを明確にし、一歩でも先へ挑戦することによって、メンバーの自己成長を促して参ります。

【地域の未来へつなぐために】

江津市では少子高齢化や若年層の流出により、高齢化・人口減少に歯止めが利かなくなっています。またこれらに起因し、地域経済の著しい衰退もあり、このままでは江津市のみならず石見地域が消滅する危機に直面しています。私たちはそれらの問題を次世代へ持ち越さないよう、より良い形で地域を継承して行かなければなりません。そのためには、石見の特長、魅力を最大限に引き出し、発展・活性化へと繋がるシステムを構築するという挑戦が重要となります。人生の中でもっとも輝きを放つ青年期を生きる私たちが、今しかできない、今だからこそできることを全うし、江津市のみならず、石見地域、島根県、そして日本をより良い形で次世代に引き継いでいきます。

【輝ける未来へ】

近年、江津市ではインフラ整備が喫緊の課題となっています。特に山陰高速道路は、市民レベルでは整備の重要性に対する理解度は決して高いとは言えないのが現状です。

我々は、日本という国、日本人のこころ、日本の文化・技術を深く理解し、全国すべての地域で同志が活躍しているという強みがあります。また、まちづくりの視点、JCのネットワークを活用し、近隣地域の魅力を発信することによって、インフラ整備早期実現を目指すとともに、地域産業や伝統、文化を活かした地域再生を市民と一緒に考えるという活動が可能になります。

【使命への挑戦】

主体性のある組織運営には、目に見えない価値観を共有することが必要不可欠であります。一つの意思から多くの共感をつくりだし、その共感の集合体が組織の一貫した使命として確立されます。そして、我々はこの先の未知なる可能性への挑戦への第一歩を踏み出すことが可能になります。

また、高いマネジメント力を発揮することで、主体性と当事者意識から生まれる挑戦を促進し、メンバー同士が相互に切磋琢磨できる環境を創造します。そして、この組織内における総務は、高次元の「先見性と計画性」を発揮し全会員を牽引します。さらにはメンバー一人ひとりが「先見性と計画性」をもって、枠組みを越えた挑戦のできる環境を提供します。

【江津 J C ブランディング】

江津青年会議所の追求する組織像は国内でも有数の高い多様性を持っています。その組織の価値をメンバーのみならず、自身の大切な家族、友人、同僚、そしてこの地域全体へ共感を広げることで、組織の活動への高い信頼性を生み出すことができます。そして、その価値をさらに高めるには、社会に対し、確実かつ強固な信頼関係の蓄積が必要になります。

また、共感性を具現化するクラウドファンディングなどのシステムが活用されている今、我々は、影響力溢れる行動を体現し、人の心を動かし、組織外への影響はもちろんのこと、メンバー自身にも、改めて組織の価値を気付かせ、大きな一体感を持たせます。

【社会課題抽出力の向上】

この日本の中でも最先端を走る問題が我々のふるさとに存在しています。我々はこの一つ一つの問題に対し明確な判断と行動、そして地域社会が真に求める活動を実践していく必要があります。

そのため我々はこの組織の外側でおきている多くの社会活動に目を向け、各関係諸団体との窓口を大きく広げ、友好的かつ、実践的な関係を築く中で情報の精査・収集を行います。

そして、そこで得た幅広い視野と思考を組織内外へ発信していくことで、我々はさらに地域社会に貢献する団体として挑戦と成長を実現します。

我々は、多くの情報を見通し、組織の進むべき指針を照らす機能を果たすことで、地域社会全体を豊かに改革します。

【個と公が調和するふるさと大家族の形成を目指して】

社会の一員としての個があり、公と私の調和がとれていた状態は、戦後の公よりも個を優先する個人主義によって変化し、バランスが崩れた状態にあります。現役・未来を担う世代は、個人の自立性と社会の公共性の協和を目指し、市民一体となって地域や次世代を育てる「ふるさと大家族」を形成する必要があります。

地域の中にある個人として誇りを持つためには、住み暮らす地域に誇りを持つことが必要です。歴史が古く四季があり豊かな自然に恵まれたわが国には、多様な自然環境と文化が存在します。地域の成り立ちから、現在に至るまで紡がれてきた魅力に気づき誇りを持つことは、自らの誇りとなるだけでなく、他の地域や異文化への尊敬と理解へとつながります。

【スポーツ大会】

ブロックスポーツ大会は、東西に長い島根県のメンバーが一堂に会しスポーツを通じて連帯感や結束を生み、友情を育むことができる大切な機会となります。

ブロックスポーツ大会が LOM 主管に移行して初めての大会が江津の地で行われました。そして、本年は記念すべき 10 年目の大会となります。江津流のおもてなしを持って島根ブロックの友情を深める大会を実現します。

【江の川祭】

祭は日本人の魂であり、地域住民の共同意識を高める重要な場であると同時に、歴史や伝統を披露する場でもあり、その想いや技を次世代に受け継ぐ場でもあります。

江津市最大の祭である江の川祭は、江津市民、江津にゆかりのある人びとが一堂に会し、楽しみ絆を深める場です。先輩方がその楽しみを最高のものにすべく毎年工夫し、関係諸団体と共に発展させてこられました。昨年の新会場パレットごうつでの開催の経験を糧に、本年は更なる飛躍に挑戦し「市民総参加の祭」の実現を目指します。

【終わりに】

「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。」（エリック・バーン）

本年度、「他人」や「過去」にフォーカスするのではなく、今ここから始まる「未来」と「自分」にフォーカスし、外的要因や過去に捉われることなく自分で限界を決めずに自分の無限の可能性を信じて挑戦し、共に成長していきましょう。

それこそが石見地域の明るい豊かな社会の実現につながります。